

・ Aは、Bら数名が法人として設立するための準備を進めている、芸術の振興を目的とする団体である。Aの代表者であるCは、金融業者であるDから、Aの活動資金に充てるとの名目で3000万円を借り受けた。しかし、この借入金は、実際には、Cの妻の経営する会社が負った債務の弁済に充てるためのものであった。その後、Cの妻が経営する会社は倒産し、3000万円の借入金の返済はできなくなった。この前提の下に、次の問(1)・(2)に答えよ。

2006年度

民事法問題用紙

(1) 権利能力なき社団の要件を明らかにした上で、Aが権利能力なき社団であるかを簡潔に論ぜよ。解答は、茶色の解答用紙(その2)の表面にしるせ。

(2) Dは、貸金債権を回収するために、誰に対してどのような主張ができるか、相手方の反論も考えながら論ぜよ。解答は、茶色の解答用紙(その2)の裏面にしるせ。

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は黒インクのボールペンまたは万年筆で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた者は監督に申し出てください。(黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は4ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

・次の文を読み、下記の間(1)・(2)に答えよ。解答は、紺色の解答用紙(その1)の表面にしるせ。(なお、解答は、現在施行されている商法を前提に行うこと)

A株式会社は東京証券取引所第一部に上場する工業製品メーカーである。近時、A社の主力製品に重大な瑕疵が発見され、しかもA社がその瑕疵に気がつきながらこれを隠蔽しようとしていたことが明らかになった。このため、A社の市場における信頼は急速に低下し、当面の運転資金の調達もままならなくなるおそれが生じている。

B株式会社はA社の株式の3割を保有し、同時にA社の主要な取引先でもある。B社の取締役Cらは、このままではA社の経営が危機に瀕すると考え、A社支援のため、A社の発行する優先株10億円分を引き受ける旨、取締役会で決定した。B社の株主であるXは、そのような取締役会決定に不満を抱いている。

(1) B社がA社株式を引き受ける前に、Xはこれを差し止めることができるか、理由を付して論ぜよ。

(2) B社がA社株式を引き受けた後、XはCらに対して損害賠償を請求できるか、理由を付して論ぜよ。

・手続の進め方や攻撃防御方法の提出について、当事者の意見はどのように反映されているか、次の語群中の各用語をそれぞれ必ず一回は織り込んで、論ぜよ。解答は、紺色の解答用紙(その1)の裏面にしるせ。

〔語群〕

訴えの変更	鑑定	期日の指定・変更
自白の撤回	進行協議期日	審理計画
責問権	当事者の同意	任意訴訟禁止
弁論主義	弁論準備手続	弁論準備手続終了後の攻撃防御方法の提出